

想 創 奏

18
号

発行人 荒川 輝男
編集人 真頼 正施
〒536-0013
大阪市城東区鳴野東 3-18-5
社会福祉法人 そうそうの杜
Tel 06-6965-7171
Fax 06-6167-2622

憤

障害者自立生活破壊法に怒りを込め、
.....
どれだけ言葉を尽くしても.....

社会福祉法人
そうそうの杜

障害者運動の哲学

大熊 章夫

4月からの支援法実施に向けて、減免申請や審査会準備に追われる毎日です。「介護保険と同様の制度に！」というこの流れは止めようもない状況です。

前回の記事でも書きましたが、昨年、障害者団体が **「支援法反対！」** と運動していたのですが、今ひとつマスコミ・市民の共感を得ないうちに終わってしまった感があります。これは単に「所得の少ない障害者から費用をとるとは許せない！」と言っても、「お年よりも少ない年金から取られているのに何ゆうてんねん」と思われてしまうからです。もっとも車いすなど補装具を多く利用する重度の肢体障害者は、ホームヘルプ＋補装具の負担が生じ、えげつない金額（月 74,400 円とか）になるので、これは高齢者と比べても怒ってもよいと思います。特に児童は、健常児には子育て支援で手当など拡充といいながら、障害があるととたんに過重な負担、となっており、不公平この上ないものになっています。ただそうした方以外は、お年よりの費用負担とどう違うのか、といわれると難しいものがあります。

今回、国の出したグランドデザインの考え方に、明確な対案を示せなかったのは、福祉現場で働く人たちや当事者運動に関わる人たちに、

「哲学」がなかった

からではないか、と思うのです。

むかし、青い芝（脳性まひ者などが起こした運動）では、「親は敵だ！」「健全者社会の愛と正義を否定する！」などの明確なスローガン・哲学がありました。そして健常者に「介護に入れ！」「私たちと関われ！」と強力に迫ったものです。それがいつのまにか、介護が「仕事」になってきて、様相がかわってきた経過があります。運動も対行政となり、介護に関わる予算を少しでも増やす、ということに集約されてきた感があります。結局健常者にとっては、「介護に入る」か「お金を払う」しか障害者のケアを支える手立てはないのですね。しかしこれから、今の流れでは障害者福祉に関する予算が増えていくとはどうにも思えません。医療費も削減の中で、入院・入所が減らされていくことを考えると、自立生活ならぬ「無理やり在宅」が増えていくと思います。行政の現場には、障害者や認知症高齢者について、火の元が危ない・自傷・他害行為がある、などの理由で、「なんとか病院（施設へ）」という相談が多く寄せられます。結局「家族の崩壊」に加えて、地域住民の包容力の低下もあるのかな、と思うのですが・・・

これからはこうした無理やり在宅による「地域摩擦」も増えると思います。障害のある人たちや私たち関わる者が、この状況の中でどう考えたらよいのかを今一度考える必要があると思います。松藤先生の言われるように、地域・周囲に「迷惑」をかけることを恐れない態度がこれから特に必要と私も思います。基本的に人はお互い迷惑をかけあって生きていくものだと思いますし、運動の原点に帰って障害者と健常者の関係のあり方から、再度考え直すことが必要と思う今日この頃です。



「心のわを広げる体けん」

小学校 2年 池田 瀬里菜

わたしは、おじさんのことを話します。

おじさんは、おかあさんの弟です。

おじさんは、生まれつき目が見えません。それに足がふじゆうで、毎日の生かつの中で大へんな事がいっぱいあります。たとえば、一人でお風呂に入るなどわたしたちには、かんたんなことかもしれないけれど、おじさんにとっては、一人でお風呂に入るなんて、とてもむずかしいことなのです。そして、目が見えないため、食べたいものがあってもおじさんが、手をのびしたところで、食べたいと思ったものところにじぶんの手で取ることができないので、おじいちゃんやおばあちゃんの力をかりて、ごはんを食べないといけないのです。それに足がふじゆうなので、ふだんは車いすで生かつしています。だから、車いすのままかいだんを上がるときは、おとうさんやおじいちゃんおばあちゃんもっているの、わたしもなるべくみじかいかいだんのところでは、手つどうようにしています。その車いすをおして、ふべんにかんじることがあります。

このまえおじさんとレストランに行ったとき、かいだんしかななくてこまりました。あとは、みちがせまくて通れないことなどもよくあります。

おかあさんから聞いたのですが、前に、おじさんをつれて、海外へいったことがあるそうです。そのときにどこにいてもスロープがあり、のりものにのるときも、さいしよにのせてくれて、うんてんしゅさんがせきをあげるようにこえをかけたらしんせつに手をかしてくださるひともたくさんいたそうです。かいがいしょうがいしやにたいする考えかたをとてあたたかくかんじたと、おかあさんは言っていました。

わたしはしょうがいしやにたいするやさしさを、日本の人たちもみなおすべきだと思えました。おもいやりをもつと「ふやしたいな。」とおもいました。

おじさんを見ていて、かんじたことは、おじさんは、目が見えなくても、わたしたちのこうどうを耳で聞いて、あたまで考えて、わたしたちのほうをむき「どこへ行くの。」と聞いたりします。おじさんは、目が見えなくても、わたしたちよりすばらしい耳をもっているんだとかんじました。

すばらしい 孫

春本 静良

今から8年前、瀬里菜は初めての女の子の孫として誕生しました。

それからは、我がファミリーはこのかわいい孫を中心に日々生活をしてきたと言っても過言ではございません。

瀬里奈の叔父である勝治とは、絶えず一緒に遊んだり、泣かされたり、お世話をしたりして成長して参りましたので、彼の行動や動作等を彼女なりに真剣に見ていて、私どもには思いもしなかったことを

想っていた ことに **驚き** と **感動**

を覚えました。

彼女は、おっとりとした性格でしたが見るべきものはしっかりと見ており、とるべき行動は的確に対処する、すばらしい孫です。

私事ですが、今から2年前、彼女の的確な判断と迅速な行動のおかげで私の大病を早期発見し、治療・完治することができました。

「ありがとう… せりな」



「みんなが笑顔でいれる作業所を作りたい」

小学校 6年 吉田 楓

私は、なぜしよう害者や老人たちがみんな笑顔でいれる作業所を作りたいかということ、みんな一生けん命生きていくからです。

耳が聞こえなくなった人、目がみえなくなった人たちは、とても世の中が不自由です。

たとえば、テレビが見えないことや、きけない事、相手の顔がわかりません。

でも、そんな事にも負けず、何事にもがんばっていけるといふ事が、とってもすてきな心から思えます。

また、ふつうの人よりじゅ命がみじかい人。どんなに努力したって、どんなにわらっていたって治らない病気の人の。こんな人にこそ、私がしよう来作る作業所を使ってほしいです。なぜなら、病気がかかっていても自分たちの生きる楽しさや、充実した人生を失わないでほしいからです。

そして、私が作る作業所が、みんなの人生をもっともっと光かがやかせられたらいいなとおもいます。

だから今からでも、小さな事でいいので、もっともっとしよう害者の事を考えていかなければなりません。私は今、お母さんの働いている作業所に時々行っています。

これからもみんなが助けあって、地球みんなが笑顔いっぱいの人たちであふれてほしいです。

おばあちゃんからのプレゼント

吉田 久美子

突然

学習塾の先生から楓の作文の事を聞かされました。

将来の夢という課題で作文を書いたところ入選したと！私は全く作文の話など子どもから聞かされていなかったのでびっくりしました。なぜこのような作文が書けたのか・・・？

今思うと、私が創奏で働きだした頃（当時小学校1年生）から創奏へ連れて行き、障害のある人達と一緒に仕事をしたり、お話ししたり、初めは

きよろきよろ

周囲を観察していましたがすぐに溶け込んでいました。

夏休みなどは子どもだけ残して仕事へ行くことが不安だったのです。

無理を承知でお願いしてみると「いいですよ」

この一言で気持ちが楽になり、ありがたく思いました。

私の祖母は去年の9月に亡くなりました。

私は祖母の介護をどうしても家でやりたくて・・・

この時ばかりは楓にも負担をかけました。

「あの時は本当に良く手伝ってくれたなあ・・・」

と今でも思い出します。

この賞を頂いた時、冗談で

「おばあちゃんのプレゼントやな！」

と言うと

「こわ～い事言わんといて」

と笑っていました。

こんな楓も4月からは中学生・・・

勉強・運動に励み心の優しい女性になって欲しいと願います。



ケアマネジメント勉強会

—アセスメントシートの開発2—

帝塚山大学 榎本 久美子

前回の「アセスメントシートの開発」に続き、「2」を報告させていただくことになりました。今回は、現在も検討を続けている“ケアマネジメント勉強会作・アセスメントシート”について、その原案、工夫した点、記入の方法などを述べていきます。

(1) アセスメントシートの目指すもの

私たちの目指すアセスメントシートは、利用者理解を主眼に置き、「その人の“ひととなり”が見えてくるもの」であることを最重要視しました。具体的には、1枚の紙を読めば、その人の全体像が見えてくるもの、時系列で記入することができ、なおかつ、それが見えるものを作ろうということになりました。また、一方で、前回報告した通り、アセスメントの必要性を再確認したことから、このアセスメントシートが広く用いられるよう、「使いやすいアセスメントシート」であることを重視しました。具体的には、必要な情報だけを選択して記入できること、記入例を示すなどといった工夫が必要であると考えました。

(2) 原案作り

実際にアセスメントシートの原案を作るために、その基としたのは、アメリカで開発された个人中心計画のためのアセスメントの領域設定と記入方法でした。そのアセスメントの大きな特徴は、例えば、「人との関係」といった領域について、一枚の枠だけの白紙の用紙を設けているところです。つまり、わが国での多くのシートに見られるような複数の項目をチェックしていく用紙とは大きく異なり、すべて文章や図で記入していくのです。私たちの話し合いでは、項目ばかりでチェックしていく様式よりも、むしろ、自由に記入できる欄が大きい方が良いとの意見が多かったことから、この様式を参考にすることにしました。しかしながら、使いやすいシートの開発を目指していることから、参考になるチェック項目や記入例の挿入が必要であることも確認されました。

第二点目の大きな特徴は、当事者の主体的参加を促すことを目的として、その白紙の用紙に、支援者と利用者の両方が書き込んでいく方式を取っていることです。私たちのアセスメントシートに、この当事者参加の記入方法がどの程度実現するかは、模索しているところですが、使いやすいアセスメントシートであることを考えると、やはり、基本的には、支援者が記入し、可能な場合は、当事者にも記入してもらうことができるといった援用になることが推測されます。

(3) 新たな工夫

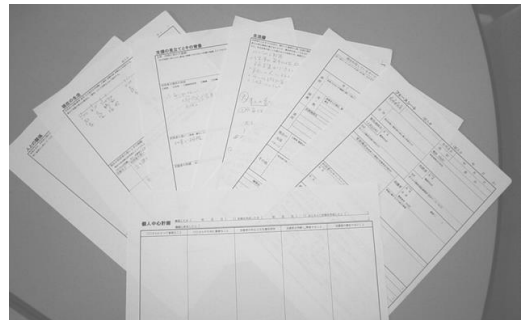
以上のような原案をもとに、さらに話し合いを進め、以下のような改良を加えました。その一つ目は、あまり変化しない固定的な情報と、日々変わりうる変動的な情報を分けて記入する形式を用いることです。つまり、前者をフェースシートとして用意し、後者をアセスメントシートとして用紙を分けました。さらに、面接の最中に記入しやすくするために、主訴や支援の見立てなどを記入する用紙を設けました。

二つ目は、各領域に一枚ずつの用紙を用いる方式では、利用者の全体像が見えにくいといった意見が出されたことから、一枚でその人の全体像を描く用紙を追加したことです。さらに、状態が大きく変わった時に、必要に応じて、利用者の状態を記入する一枚ものの用紙を更新することにしました。

- ① フェースシート：固定的な情報
- ② アセスメントシート：変動的な情報
 - ・ 現在の生活
 - ・ 人との関係
 - ・ 生活暦
 - ・ 健康に関すること
 - ・ 食事・洗濯・掃除・入浴等生活に関すること
 - ・ 経済的なこと
 - ・ 安全に関すること
 - ・ 支援の見立てとその背景
- ③ 個人中心計画

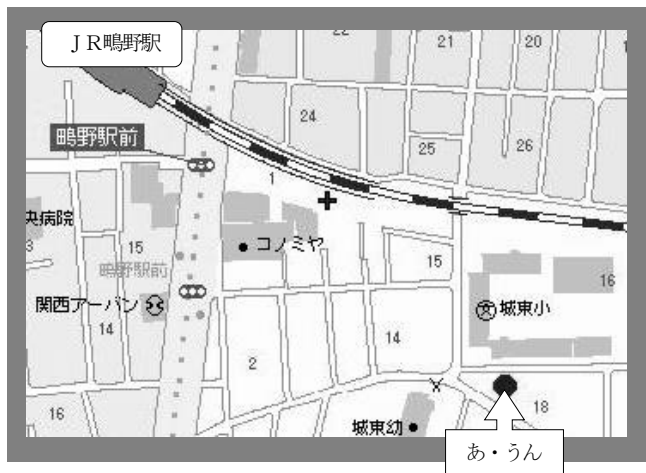
(4) 今後の予定

現在は、試作したアセスメントシートを実際に使って、ケースの記入を行い、検討を重ねています。今後は、アセスメントシートの完成に向け、シートの修正、記入例の加筆、そして、個人中心計画へのつながりを視野に入れた再検討を行っていく予定です。



フェースシート・アセスメントシート・個人中心計画

毎月第4水曜日に“ケアマネ勉強会”として有志で集まり、よりよいアセスメントシートの開発に取り組んでいます。
＝目印はこの看板＝



今号は、皆様が楽しみにされている松藤さんの原稿は業務多忙のため掲載できませんでした。その代わりに、自立支援法で暗い話題ばかりですので、二人の小学生の明るいニュースをお届けします。一人は法人の監事をお願いしている春本さんのお孫さん、もう一人は作業所のスタッフの娘さんの文章です。立場は違っても障害と身近に接して素直な心情を表現しています。

荒川 輝男

お知らせ

社会福祉法人ピースクラブ主催

= 第 1 回 =

アートのカーニバル

— 出品グループ —
ピースクラブ
そうそうの杜
その他参加自由!
持ち込み大歓迎!!

入場無料です



開催期間：2006年4月3日(月)～10日(月)
場 所：ピースクラブ4階多目的ホール
時 間：10:00～17:00 (土曜日は14:00まで)

※4月9日(日)
なにわすずむし食堂
12:30開場/13:00開演
軽食付き¥1,500です

—出演—
おーまきちまきとのむらあき
フリーラジカル
KOEIとPEACECLUB
さっちゃんのパナナーズ
あしあとあ
すず虫バンド

お問合せは、ピースクラブ第1回アートカーニバル実行委員会
〒556-0014 大阪市浪速区大国1-11-1 TEL/FAX 06-6647-2077

賛助会にご協力をお願いします

下記の郵便振替口座にお振込み願います。

一口 2,000円

振込先 (加入名) そうそうの杜
口座番号 00940-5-185986



寄贈 電動自転車 (2台) 三上 孝雄様

・ 賛助会費として（平成17年9月～平成18年2月）

宮地 利也	坊谷 一	渡辺 沙淇子	勝賀野 淑子	櫻井 はす代
中永 美津子	萩原 令子	辻 吉雄	辻 八重子	飯田 志津江
小田原 清美	明石 令子	太居 久実	太居 千晶	浦川 泰子
末山 秀子	富吉 富美恵	富吉 綾	富吉 悠花	三宅 重信

・ 一般寄付として（平成17年9月～平成18年2月）

春本 静良	吉見 重則	渡辺 茂夫	日比野 清	三上 孝雄	面高 雅紀
深川 節子	藤野 正行	宮崎 いく子	菊地 佳子	富山 理子	名谷 清美
椎木 明美	山本 大助	小南 義明	ミクロン工業株	城東区民生委員	
CLC全国コミュニティーライフサポートセンター				民生委員児童委員城東区支部	
大阪市肢体不自由児者父母の会				(敬称略 順不同)	

上記の皆様よりご寄付をいただきました。その他、三上孝雄様より電動自転車（2台）、地域の方々に牛乳パック・食器・ソファ等様々な物品のご寄付を頂いておりますことを心より感謝申し上げます。

《編集後記》 2～3月にかけて大阪市障害者ケアマネジメント従事者研修会に参加させていただきました。様々な観点から体系的に学ぶことができ、自分にとっては良い経験ができました。今後の支援に生かしていけるよう努力したいと思います。(㊟)

—お悔み— そうそうの杜を利用されていた三上和義さん（グループホーム綾入居）、棟方廉三さん、寺田泰子さん、井上香さん（ホームヘルプセンターとことこと利用）が逝去されました。それぞれの方が日中活動や生活場面、余暇活動で利用されていました。このうち2名の方は念願の地域生活を開始されて約1年半という短い期間ではありましたが不十分な支援ながら地域で充実した生活を送られていました。皆様の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

—社会福祉法人—
もり
そうそうの杜

〒536-0013 大阪市城東区鳴野東3-18-5
Tel 06-6965-7171 Fax 06-6167-2622
E-mail sou-sou@gol.com/Home-Page sou-sou.com

地域生活支援センター あ・うん		
ホームヘルプセンター とことこと		
障害者デイサービス（身体） 庵	大阪市城東区中央1-6-23	Tel/Fax 06-6935-0909
障害者デイサービス（身体・知的）げんげん	大阪市城東区関目2-6-4	Tel/Fax 06-6935-1727
知的障害者小規模通所授産施設 創奏	大阪市城東区中央1-7-27	Tel/Fax 06-6935-3794
知的障害者小規模通所授産施設 座座	大阪市城東区鳴野西4-17-23	Tel/Fax 06-4258-6013
知的障害者小規模通所授産施設 山下紙器	大阪市平野区長吉川辺2-8-58	Tel/Fax 06-6706-1022
障害者福祉作業センター つむぎ館	大阪市城東区関目1-14-21	Tel/Fax 06-6933-7269
身・知・児 短期入所施設 添	大阪市城東区鳴野西5-18-13	Tel/Fax 06-6965-1235
グループホーム 想	大阪市城東区中央2丁目	
グループホーム 縁	大阪市城東区中央1丁目	
グループホーム 綾	大阪市城東区今福南4丁目	

